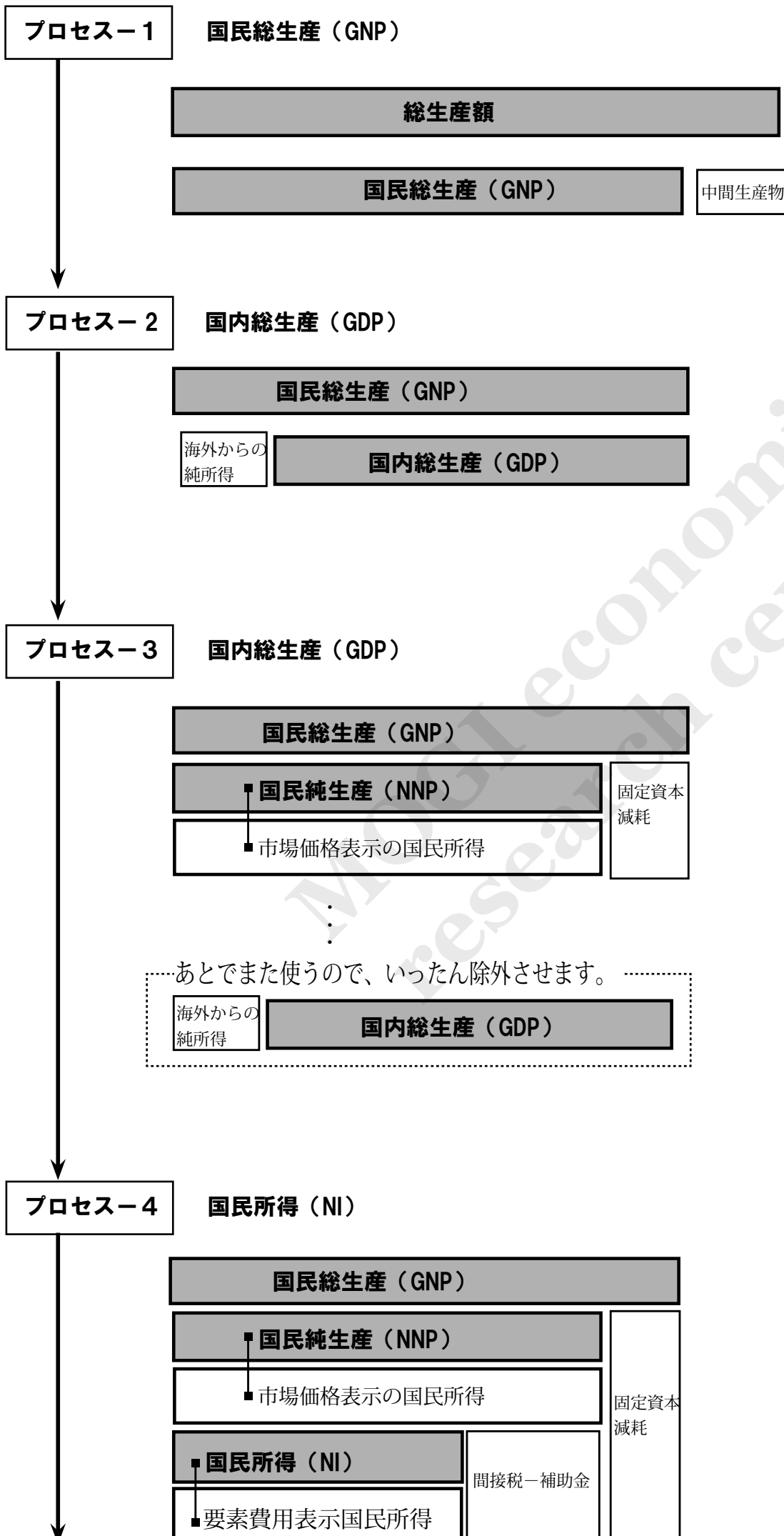


国民経済計算の求め方



総生産額から、中間生産物を引き算して、**国民総生産（GNP）**をもとめます。

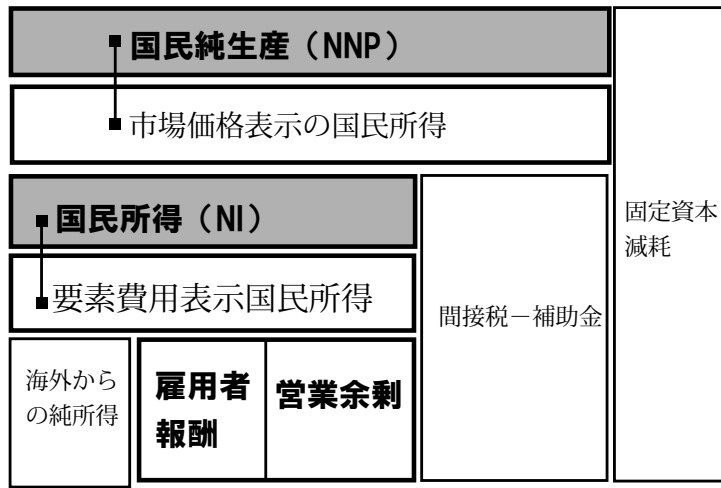
そして、国民総生産（GNP）から、海外からの純所得（海外から入ってくる所得から海外へ出ていく所得を差し引いた額）を引き算して、**国内総生産（GDP）**をもとめます。

さらに、国民総生産（GNP）から、**固定資本減耗**を引き算して、**国民純生産（NNP）**をもとめます。これは、市場価格表示の国民所得とも言われます。

国民純生産の「生産」と言葉を使っていますが、有効需要の原理にしたがって、支出した額で計測されるために、それが市場での**取引価格ベース**になっているということです。

市場価格は財に間接税分が上乗せされ、補助金分が差し引かれているので、これらを取り除きます。

この作業は、国民純生産（NNP）から「間接税－補助金」の形で引き算され、それが**国民所得（NI）**となります。



この国民所得 (NI) は、生産ために支払われた費用ベースになるので、**要素費用表示国民所得**とも言い、分配された所得は、**雇用者報酬、営業余剰、海外からの純所得**の3つに分解することができます。

あっ！さっき出てきたよね！

プロセス-5 国内総生産の組み入れ

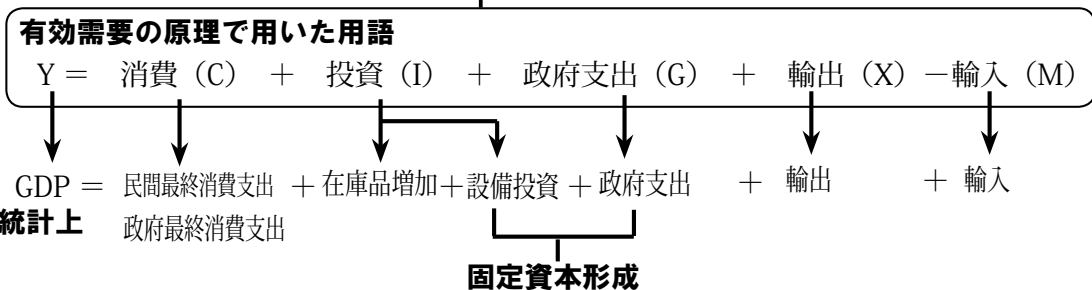


ここで、「海外からの純所得」が再度登場したので、改めて、表の中に国内総生産 (GDP) を組み入れます。

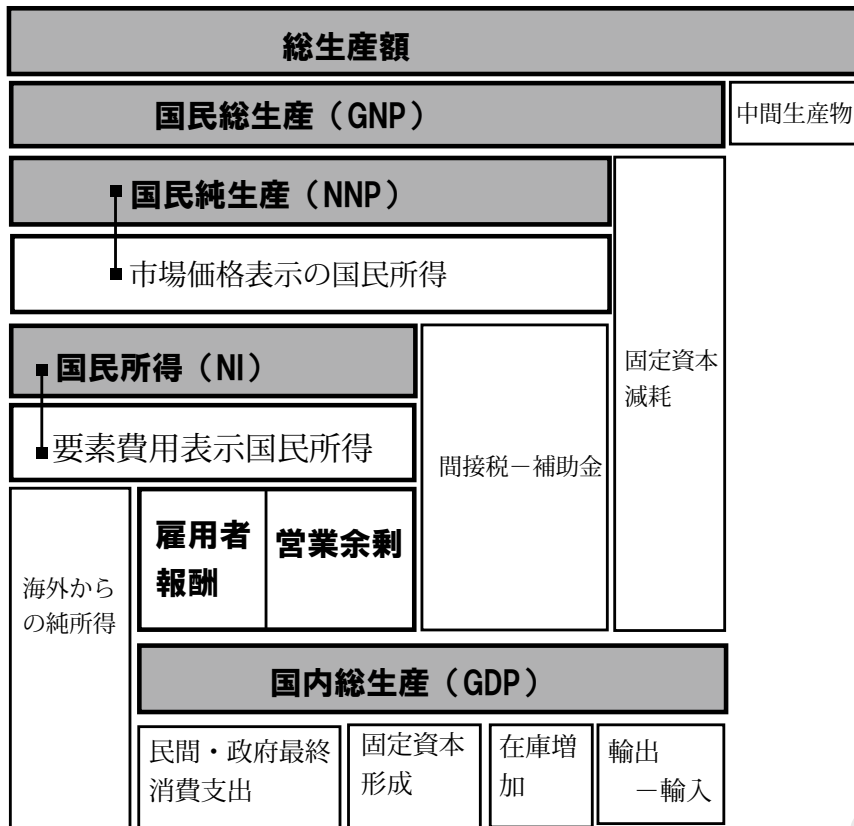
プロセス-6 経済理論との合流



国内総生産 (GDP) は経済理論の消費、投資、政府支出、輸出-輸入に分解することができます。ただし、政府活動は、政府消費 (医療費など) と政府支出 (公共投資) に分けられ、民間投資も在庫投資と設備投資に分けられます。



まとめ



最後に、すべてまとめて表にします。
 どのように組み立てられたのか理解できれば、本試験でも有用に使えるはずです。

MOGI economics
 research centre